

# 水稻の生育状況と今後の管理対策（高温対策臨時号）

令和6年7月31日  
新潟県農林水産部

- ◎ 8月2日頃から気温がかなり高くなる見込みです。
- ◎ 地域、ほ場によっては栄養不足が懸念されるので、至急、葉色を確認して追加穂肥を検討してください。

## 〔7月30日現在の県内全域の生育概況〕

- ◎ コシヒカリは指標値（生育のめやす）に比べ、草丈は「長い」、茎数は「並」、葉数の進みは「やや早い」、葉色は「並」の状況です。
- ◎ 新之助は指標値に比べ、草丈は「長い」、茎数は「並」、葉数の進みは「やや早い」、葉色は「やや濃い」状況です。

## 〔気象予報と今後の生育見込み〕

- ◎ 7月30日発表の北陸地方の2週間予報（7月31日から8月12日）では、8月2日以降は高温～かなりの高温が予報されています。
- ◎ コシヒカリの葉色は並ですが、今後も高温が見込まれることから、地域、ほ場によっては栄養不足になる可能性があります。
- ◎ コシヒカリでは草丈は長く倒伏のリスクが高い状況です。

## 〔今後の管理対策のポイント〕

### コシヒカリ

- ◎ 出穂期6～3日前に葉色を確認し、淡い場合は追加穂肥<sup>\*1</sup>（3回目穂肥）を検討し、穂が見え始めていても追加穂肥を施用してください。

### 3回目穂肥の判断基準と施用めやす（化学肥料・分施肥系）

判断基準		穂肥めやす	
判断時期	葉色 (SPAD値)	時期	施肥量 (窒素 kg/10a)
出穂期3日前	31以下	出穂期3日前	1（上限）

- ◎ 全量基肥施肥<sup>\*2</sup>では葉色を確認し、指標値よりも淡い、急激に低下している場合には、追肥を検討し、出穂期の3日前までに施用してください。
- ◎ 平年よりも梅雨明けが遅れており、7月は平年よりも降水量が多くなりました。ほ場の溝が消えてしまったところが多く見られます。溝の状態、水口、水尻への接続を確認し、速やかにかん水・排水ができるように手直しをしましょう。特に乾きにくいほ場では枕地などの部分的な滞水をなくすよう溝を修正し、収穫作業に備えましょう。

## 新 之 助

- ◎ 分施肥系における出穂期 12～10 日前の穂肥（2 回目穂肥）は、適正な出穂期の葉色に誘導するために、葉色に応じて施用してください。
- ◎ 葉色が濃いことから、ほ場内で葉いもちが発生していないかよく観察し、病斑を確認した場合は速やかに薬剤防除を行ってください。また、出穂期を把握し、適期に穂いもち防除を実施してください。

## 害虫防除

- ◎ 斑点米カメムシ類の注意報が発表されています。斑点米被害を抑えるため、水稻の出穂後も、メヒシバ等の出穂したイネ科雑草が繁茂しないよう除草を継続し、カメムシ類の密度を抑えてください。また、品種ごとに出穂期を確認し、適期を逃さず、確実に防除を実施してください。

## 水 管 理

- ◎ 出穂期前後は最も水を必要とする時期であり、登熟期間は高温により白未熟粒や胴割粒の発生が多くなります。土壌が湿った状態を保つ飽水管理<sup>\*3</sup>を継続し、地温の上昇を抑え、根の活力維持に努めましょう。
- ◎ 出穂開花期では高温により不稔が発生します。フェーン現象等で高温・乾燥が予想される場合は、事前にかん水し、不稔の防止に努めてください。
- ◎ こまめに水回りを行い、かん水が終了したら速やかに水口を止めて節水に努めましょう。また、緊急的な水管理が行えるよう、地域の効率的な水利用について、事前に準備を進めてください。

\*1 穂肥（ほごえ）：穂が出る前に行う追肥のこと

\*2 全量基肥施肥：全生育期間に必要な肥料成分を、田植え前または田植え時に一括して施す施肥法のこと

\*3 飽水管理（ほうすいかんり）：土壌を湿潤状態に保つこと

## 熱中症予防

- ◎ 飲料水を十分に確保しておく、気温の高い時間帯や単独での作業を避ける、のどが渇く前にこまめに水分補給する、頻繁に休憩を取るなど、熱中症対策、健康管理と農作業安全に十分配慮してください。
- ◎ 特に「熱中症警戒アラート」が発表されている日は、熱中症の危険性が極めて高いので、いつも以上に積極的に熱中症の予防に努めてください。

## 〔補足資料〕

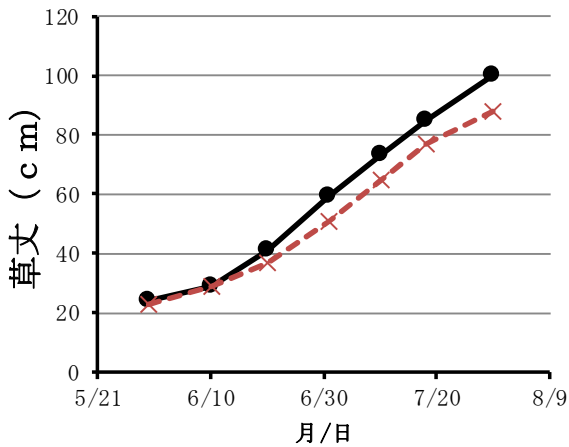
### 1 農業普及指導センター及び作物研究センターの生育状況（7月30日現在）

#### コシヒカリ

○ 指標値（生育のめやす）に比べ、丈は「長い」、茎数は「並」、葉数の進みは「やや早い」、葉色は「並」です。

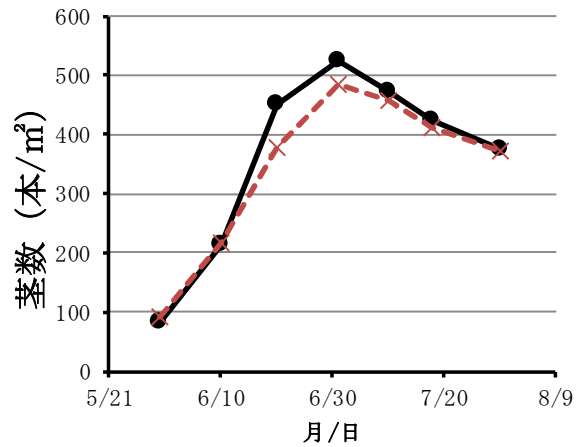
項目	本年値	指標値 (県平均)	指標値 との比較	指標値比・差
草丈	<b>100 cm</b>	88 cm	長い	114%
茎数	<b>376 本/㎡</b>	373 本/㎡	並	101%
葉数	<b>13.4 葉</b>	13.0 葉	やや早い	+0.4 葉
葉色 (SPAD 値)	<b>33.3</b>	32.8	並	+0.5

注) 県内全域の15生育調査ほデータの平均値（田植え5月11日、栽植密度16.9株/㎡）



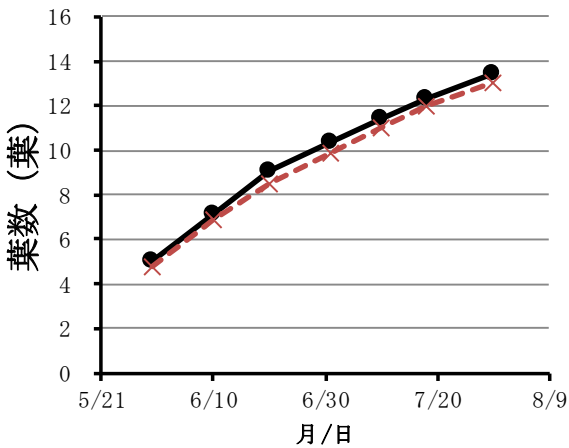
● 本年値    -x- 指標値

草丈の推移  
(県全体)



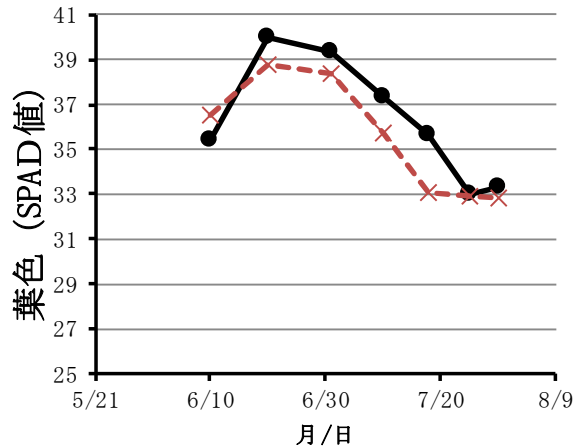
● 本年値    -x- 指標値

茎数の推移  
(県全体)



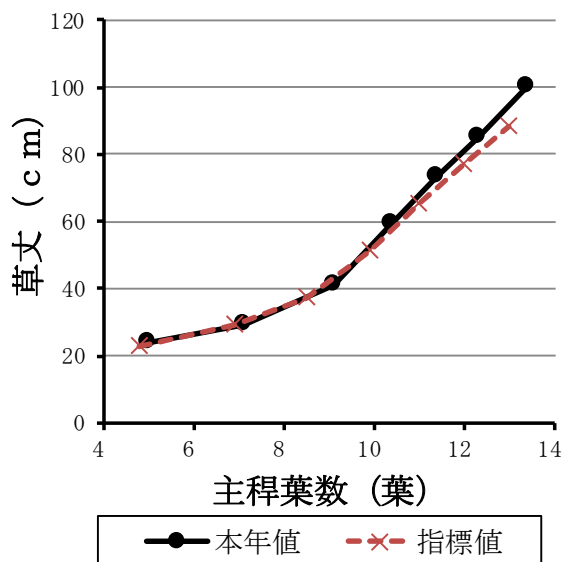
● 本年値    -x- 指標値

葉数の推移  
(県全体)

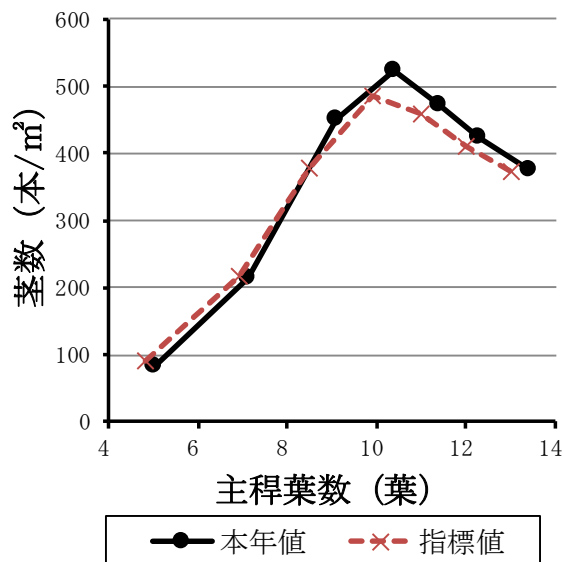


● 本年値    -x- 指標値

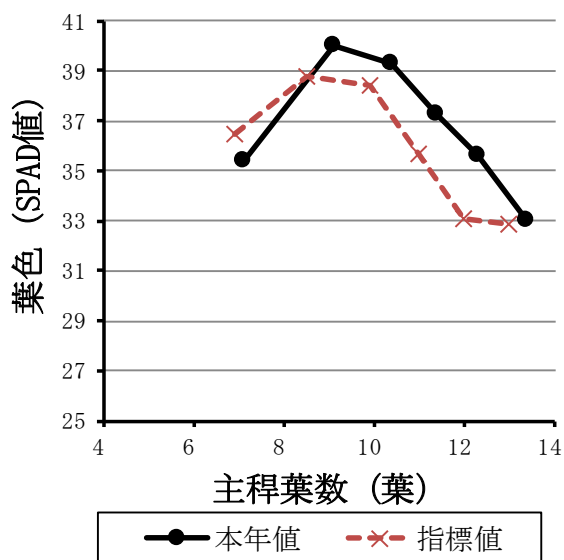
葉色の推移  
(県全体)



葉数と草丈  
(県全体)



葉数と茎数  
(県全体)



葉数と葉色  
(県全体)

○ 高温が予想されており、葉色が淡い場合は、外観品質を向上させるため出穂前に追肥が必要です。表をめやすに3回目の穂肥施用を検討してください。

### 3回目穂肥の判断基準と施用めやす (分施肥系、登熟期高温予想)

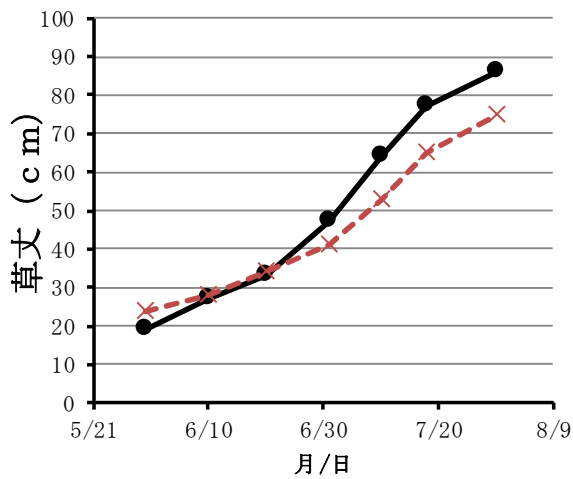
判断基準					穂肥めやす	
施肥体系 基肥+穂肥	追肥の種類	ほ場の 地力	判断時期	葉色 (SPAD 値)	時期	施肥量 (窒素 kg/10a)
化学肥料	化学肥料	—	出穂期 3日前	31以下	出穂期 3日前	1 (上限)
有機質入り 肥料 (減化学肥 料栽培)	有機質入り肥料 有機由来窒素 50%以上	—	出穂期 6日前	33以下	出穂期 3日前	1 (めやす)
	有機質肥料 100%	並	出穂期 6日前	33以下	出穂期 6~3日前	1 (めやす)
低		幼穂形成期	31未満	出穂期 6~3日前	2 (めやす)	

## 新 之 助

○ 指標値（生育のめやす）に比べ、丈は「長い」、茎数は「並」、葉数の進みは「やや早い」、葉色は「やや濃い」です。

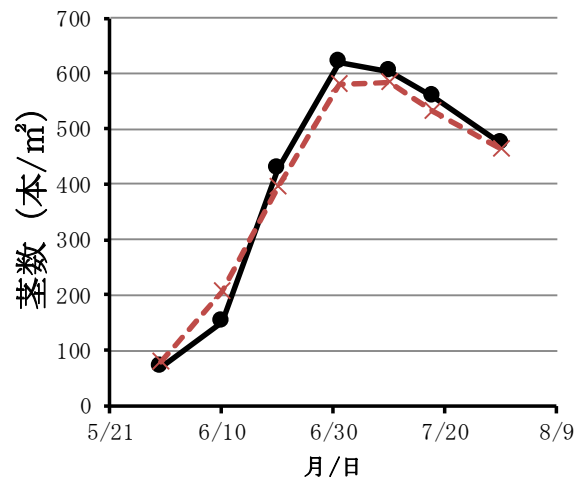
項目	本年値	指標値	指標値との比較	指標値比・差
草丈	86 cm	75 cm	長い	115%
茎数	474 本/m <sup>2</sup>	464 本/m <sup>2</sup>	並	102%
葉数	13.9 葉	13.4 葉	やや早い	+0.5 葉
葉色 (SPAD 値)	35.6	34.2	やや濃い	+1.4

注) 県内全域の15生育調査ほデータの平均値 (田植え5月18日、栽植密度16.6株/m<sup>2</sup>)



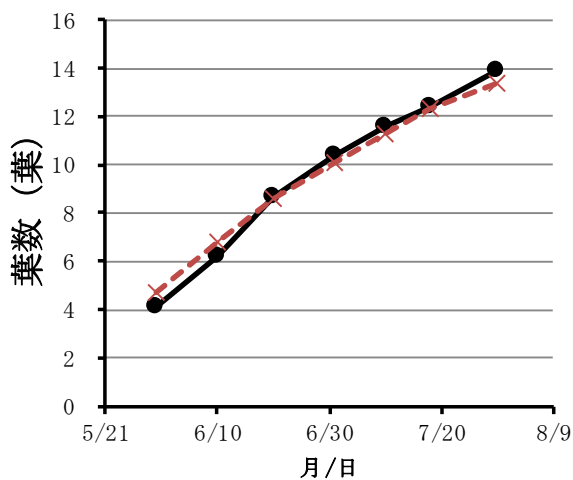
● 本年値    -x- 指標値

草丈の推移  
(県全体)



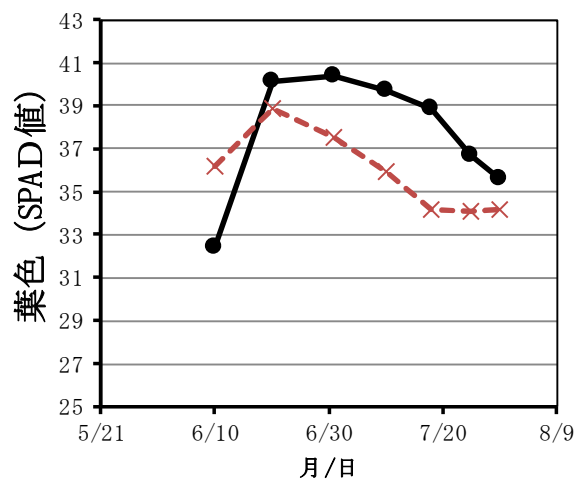
● 本年値    -x- 指標値

茎数の推移  
(県全体)



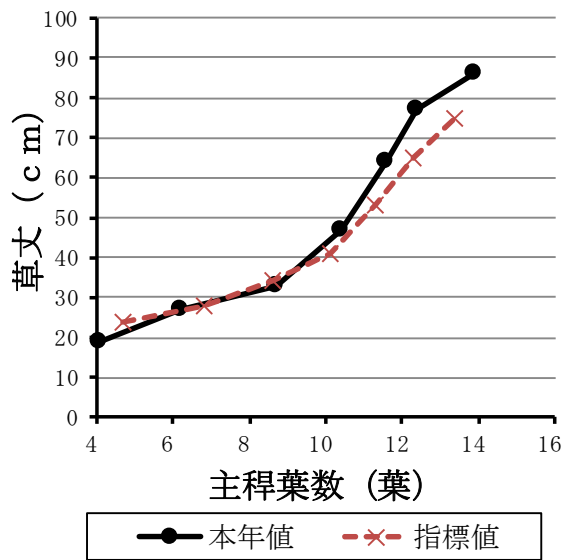
● 本年値    -x- 指標値

葉数の推移  
(県全体)

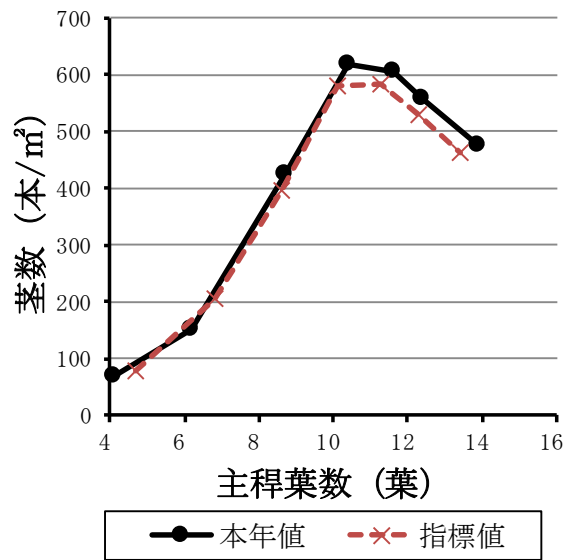


● 本年値    -x- 指標値

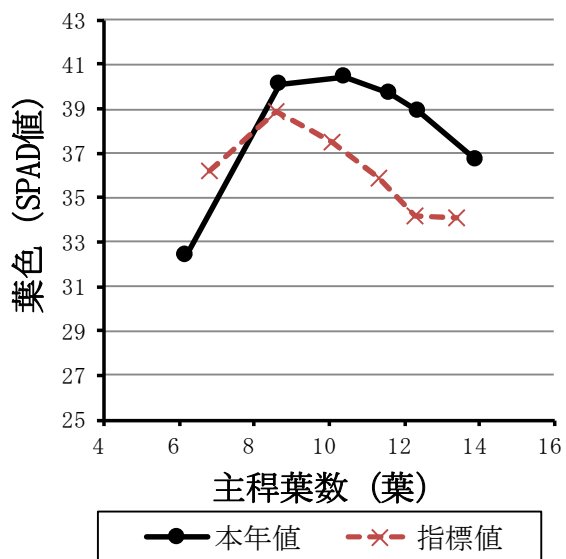
葉色の推移  
(県全体)



葉数と草丈  
(県全体)



葉数と茎数  
(県全体)



## こしいぶき (参考)

○ 指標値（生育のめやす）に比べ、草丈は「やや長い」、茎数は「少ない」、葉数の進みは「やや早い」、葉色は「やや濃い」です。

項目	本年値	指標値	指標値との比較	指標値比・差
草丈	99 cm	94 cm	やや長い	106%
茎数	386 本/m <sup>2</sup>	434 本/m <sup>2</sup>	少ない	89%
葉数	13.2 葉	12.7 葉	やや早い	+0.5 葉
葉色 (SPAD 値)	36.1	34.8	やや濃い	+1.3

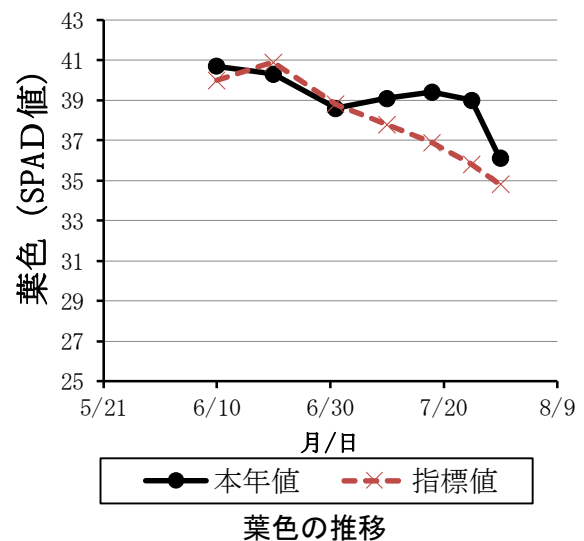
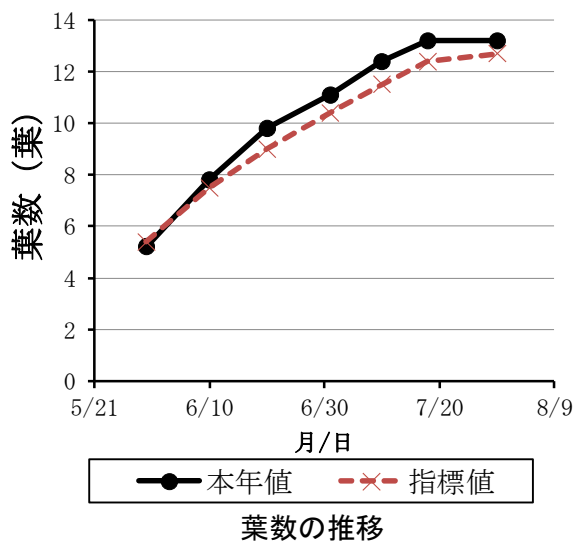
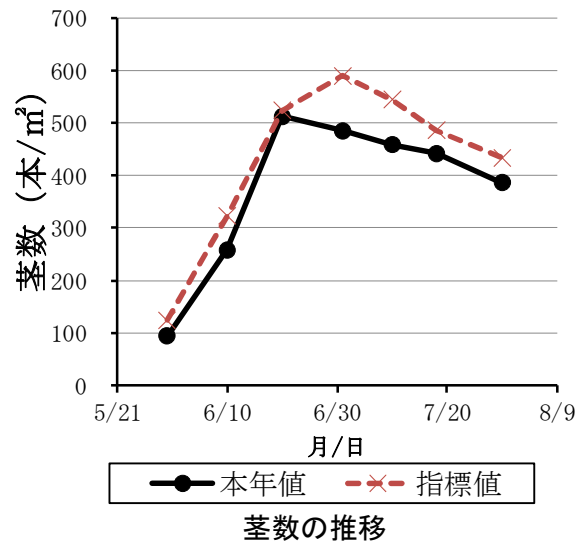
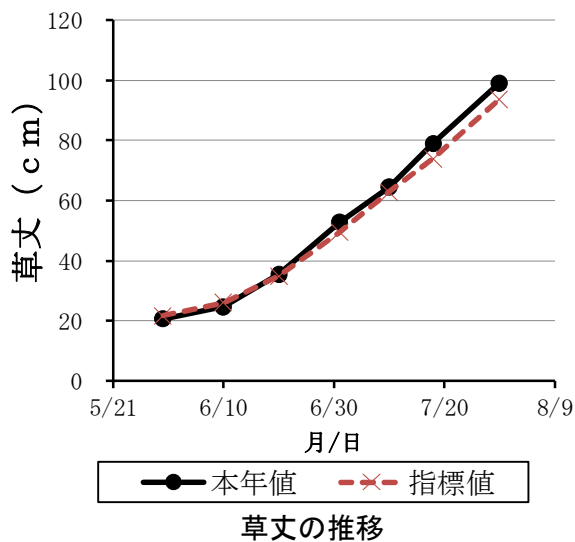
注1) 化学肥料栽培。田植え5月10日、栽植密度18.1株/m<sup>2</sup>

注2) 基肥窒素成分量3.0kg/10a、穂肥窒素成分量3.0kg/10a

(1.5kg×2回分施：1回目7月5日、2回目7月12日) ※令和5年までは1.0kg×2回分施

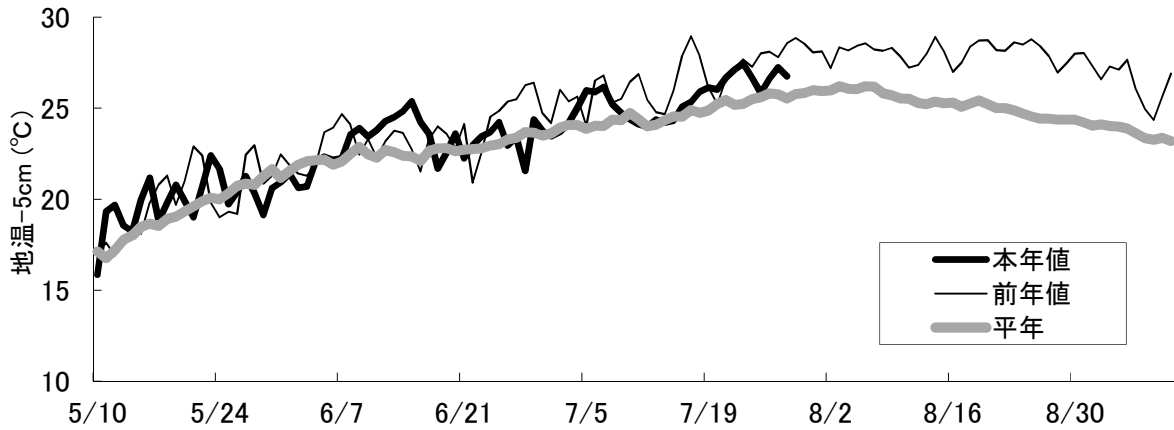
注3) 長岡市長倉町（作物研究センター）の生育調査ほデータ

注4) 指標値は作物研究センターにおける直近10年間の平均値

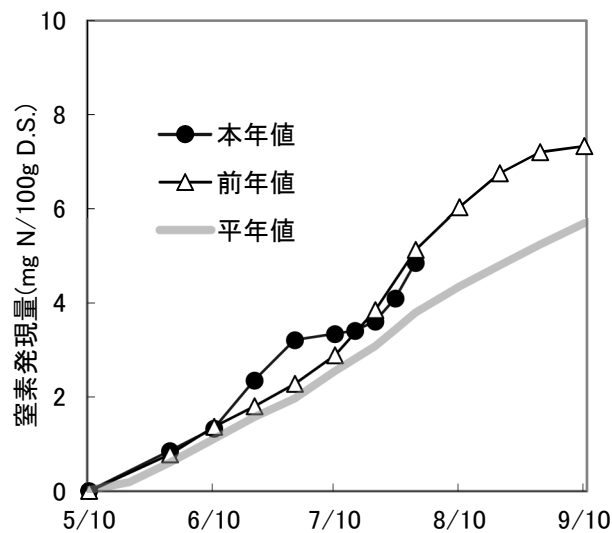


### 3 ちりよく 地力窒素の発現状況

- 7/23～7/28 の期間の日平均地温は平年差+1.1℃で平年よりやや高く推移しました。この期間までの地力窒素発現量は平年よりやや多く発現しています。



水田地温（5 cm 深）の推移  
 （農業総合研究所内ほ場、基盤研究部調査）



地力窒素発現量の推移（7月29日）

（農業総合研究所内ほ場、基盤研究部調査）

初期値=0、田植日：5月10日、化学肥料栽培

基肥窒素成分量：3.5 kg/10a